

アメリカに居住する日本人の住様式（第1報）－履床様式について－
奈良女大家政 伊東理恵

目的 近年、海外で生活する日本人の数は年々増加の傾向にある。生活様式、習慣の異なる文化圏に生活し、住宅＝生活の器が変わることにより、それまでの住様式に何らかの変化が生じると考えられる。本研究は、日本の住様式をどのような形で維持、あるいは変化させているかなど、様々な側面を整理、解明することにより、日本人の住様式、住生活の姿を改めて浮き彫りにし、今後の日本の住宅計画を考えていく上での資料を得ることを目的としている。本報では、履床様式について報告する。

方法 海外在留邦人の最も多い北米大陸の中でニューヨーク市近郊を取り上げ、そこに住む日本人を対象にアンケート調査を実施した。有効サンプル数は169票。

結果 (1)アメリカの住宅は、靴を脱ぐための土間スペースや段差はない。(2)独立した玄関ホールのある型は3割に満たない。玄関は非常にオープンに計画されており、リビングやダイニングに直接进入型、これらの部屋の一部にコーナー的に設けられている型が多い。(3)玄関の床仕上げについては、半数の住宅で玄関を入るとそこからすぐに住宅の奥の方へと連続的にじゅうたんが敷き詰められていた。(4)96%の日本人が、アメリカの住宅の玄関に対して以下のような不都合や不満を感じながらも、靴を脱いで生活するという日本の履床様式を保持していることがわかった。①玄関がリビングやダイニングにオープンに計画されているため、内部が丸見えとなり、脱いだ靴が見苦しいなどの不都合がある。②靴を脱ぐためのスペースがないため、居住者はマットや部分敷きじゅうたんなどを敷いて靴を脱ぐところを区別しているが、衛生的でないなどの理由から不満が高い。